

2013 年 8 月 1 日 (木)

ちよだプラットフォームスクウェア 402 会議室

- ◆ 委員長：中澤信夫 副委員長：久保田悟（議長） 金子純代
事務：熊谷一樹 室橋紅里子 書記：中山遼平
- ◆ 出席者（順不同）：児玉萬平 古川龍文 石黒建太郎 畠山知己 小山匠 加藤文弥
- ◆ 開会 19:00

- ◆ 海外キールボート系レガッタ
 - ・ ルーシャンカップ、メイヤーズカップの JSAF 推薦枠は、募集期日を延長したがエントリーチームはなかった。
 - ・ 昨今の国際情勢が一因かもしれない。（児玉）
 - ・ 10 月のチャイナカップについて、オンブリーズでのレース告知を行う。（連絡担当・中山）
 - ・ 9 月シンガポール開催のアジアパシフィック学生カップ出場の学生チーム紹介をオンブリーズに掲載してはどうか。（中澤）

- ◆ キールボートシリーズ相模湾
 - ・ 2014 年の開催に向けて、できれば 8 月中に関係者との話し合いを始める。（調整担当・金子）

- ◆ ネーションズカップ
 - ・ ファイナル（8 月 6-10 日）出場チームが決定。日本代表としてシエスタ坂本氏が出場する。
 - ・ ナショナルチームのユニフォーム貸与はスポンサーの関係で難しいため、今回は JSAF の支援を見送ることになった。（中澤）
 - ・ 今後同様のケースで JSAF から出場選手への支援ができるよう準備していきたい。（中澤）

- ◆ ジャパンカップなど
 - ・ キールボート日本一を決める大会として今後どのような発展が考えられるか、意見を聞きたい。（児玉）
 - ・ 問題点として、①出場チームが少ない、②開催地のホームチームに偏っている、③ボート性能の差が大きく艇数も少ないため、競る場面が少なく面白みに欠けること、が挙げられた。
 - ・ 全日本ミドルの方が盛り上がる。他のクラスとの合同開催はどうか。
 - ・ 沖縄での開催はどうか。レース海面や気候も良く、アクセスもそれ程悪くない。地域振興の補助金も期待できる。潮の強い海面もあるが、ジャパンカップ級のボートだからこそ可能。海外（東南アジア・ロシア）チームや東南アジア開催レガッタへ遠征チームがエントリーす

るのではないか。(石黒)

- ・ (時期を区切ることや隔年も含めて) 定点開催することにより、ボランティアの協力など、地域密着型のイベントにできるのではないか。(中澤)
- ・ ジャパンカップというメジャー大会のステータスを利用して、セーリングの振興にもつなげたい。(金子)
- ・ (ジャパンカップとは別に) レース前後期間を含めてファミリーで遊べる趣向のレースを今後は増やしていきたい。(児玉)
- ・ J-Sailing でタモリ氏と山崎名誉会長の対談記事を載せられないか。ヨットのコミュニティーに有名人がいることで、ヨットに対するイメージが向上するのではないか。(中澤)
- ・ 国際委員会の活動、海外との連携など当委員会でもフォローしていく必要がある。(児玉)

◆ その他報告事項

- ・ 河野 JSAF 会長が JOC 理事及び副会長(国際担当)に就任することになりました。
- ・ 前田 JSAF 専務理事が日体協の理事及び総合企画委員会企画部委員長に、鈴木 JSAF 常務理事が日体協の評議員に就任することになりました。
- ・ トランスパックレースに日本から 6 チームが参加し、クラス優勝や上位入賞など活躍が目覚ましかった。関連記事をオンブリーズに載せてはどうか。(中澤)
- ・ NYYC インビテーションナルカップの出場メンバー、チーム状況等の報告。(石黒)
- ・ タモリカップ(8月31日-9月1日、ベイサイドマリーナ)の案内。現在140艇以上がエントリーしている。
- ・ パシフィックキールボートチャレンジ2014(3月20-23日、オークランド)の案内。
- ・ ブラインドワールドでのチャーター艇のケース及びダメージに関して、オーナー向け説明会があった。(中澤)

◆ 閉会 20:45

- ◆ 次回委員会の開催日:9月13日(金)